



揖斐峡

木曾川水系連絡導水路 天下人が挑んだ 暴れ川から学ぶ ～水と自然のネットワーク～



このコーナーでは、水資源機構の環境保全の取り組みを紹介します。

ものつくりを生んだ木曾三川の歴史と自然

木曾川、長良川、揖斐川の三河川は木曾三川と呼ばれる木曾川水系として、豊かな自然の中を流れ、広大で肥沃な濃尾平野をうるおす日本でも有数の大河川です。

しかしながらこの母なる川は、これまでこの地方に多くの水害を与え、その結果、人々は水と共存する技術を生み出しました。秀吉によって文禄二年に始めた「文禄の治水」、家康が命じた「御囲堤」、「宝曆治水」に始まる木曾三川を分流する工事が、明治に入りオランダ人技師ヨハネス・デ・レーケによって成功に至りました。

その後「杵」と呼ばれる大型の取水施設による水利用、我が国初の本格的なダム式発電所、大井発電所を建設するなど、木曾三川は、ものつくりの中部地方を支えてきました。

かつて、秀吉、家康といった天下人を泣かせた木曾三川は、今、木曾川は日本ラインと呼ばれる美しい景観を誇り、「清流長良川の鮎」が世界農業遺産指定され、揖斐川では徳山ダム上流域が公有地化されて良好な自然が保全されています。

美しい自然と河川を守るために、プレモニタリング

木曾川水系連絡導水路は、現在調査段階にあるトンネル水路で、日本一の貯水量を誇る徳山ダムから揖斐川を通じて長良川と木曾川に水を送る、いわば木曾三川の水と自然をつなぐネットワークとなります。木曾川水系は色濃い自然を残す流域であることから、環境への影響を検討した結果を環境レポート(案)にまとめ、平成二十一年七月に公表、希少な動植物など生息状況、水質、河川環境などのプレモニタリング調査を行っています。

守る・伝える

ヨハネス・デ・レーケは「治水は治山にあり」を理念としていました。建設所職員は、流域の山を山崩れから守り保水力を高めるため、流域の植樹イベントに積極的に参加するほか、市民の憩いの場となるべく河川清掃に積極的に参加しています。プレモニタリングで逐一把握している木曾三川それぞれの流量や水温、濁度をとりまとめ、週一回関係者に「三川トピックス」として、河川にまつわる行事やとりまく季節の自然を盛り込んで、三河川の「いま」を配信しています。



植樹活動



アユ瀬張網漁



清流長良川あゆパークの記念碑